

**EV／PHEV ユーザーの“思い込み節約”が明らかに
約 8 割が「節約できている」と回答する一方、
節約意識として「料金プランを見直す」と答えたのはわずか 1 割程度
「EV／PHEV ユーザー VS ガソリン車ユーザー コスト意識・実態調査」**

ENEOS 株式会社（以下、「ENEOS」）は、電気自動車（EV／PHEV）ユーザーとガソリン車ユーザーを対象に、「EV／PHEV ユーザーVS ガソリン車ユーザー コスト意識・実態調査」を実施しました。

その結果、EV ユーザーの約 8 割、PHEV ユーザーの約 7 割が「節約できている」と回答し、ガソリン車ユーザーの約 5 割を大きく上回るなど、“節約している”という自己評価が目立つことが明らかになりました。一方で、燃料費や充電費用の把握度はガソリン車ユーザーが優勢であり、実際に節約意識で「定期的に料金プランを見直している」と回答したのは EV／PHEV ユーザー両者ともに約 1 割程度という結果に。経済性を理由に選ばれるはずの EV／PHEV ユーザーにおいて、“思い込み節約”の実態が浮き彫りとなりました。

こうした「意識と行動のギャップ」に対し、ENEOS では従来の「シンプルプラン」「プレミアムプラン」に加え、2025 年 10 月 1 日より新たに「PHEV プラン」の提供を開始いたします。日常利用から長距離移動、EV とガソリンの併用ユーザーまで、あらゆる EV ライフに応じたフルラインナップの料金プランが整いました。ENEOS は“本当におトクな EV ライフ”の実現に向けて、より最適な選択肢を提供してまいります。



調査結果概要

■ TOPIC 01

EV／PHEV は“コスト重視”、ガソリン車は“車両価格＋感性のバランス重視”で選ばれていた

EV／PHEV ユーザーは、車両価格やランニングコストといった“経済性”を重視。

一方で、ガソリン車ユーザーは、車両価格に加えて、外観や内装といった“デザイン性”を重視しつつ、車両価格とのバランスを見ながら選ぶ傾向が強く、クルマ選びにおける価値観の違いが際立つ結果に。

■ TOPIC 02

“節約できているつもり”が実は多数派。ガソリン車の方がコスト把握に長けていた

EV ユーザー約 8 割、PHEV ユーザー約 7 割が「節約できている」と回答。実際は、日々の燃料費の把握度ではガソリン車ユーザーが最も高く、節約感と実態のギャップが浮き彫りに。

■ TOPIC 03

料金プランの“見直し”が不十分。EV／PHEV ユーザーは節約の本質を見落としがち

EV ユーザーの約 6 割、PHEV ユーザーの約 7 割が料金プランの定期的な見直しを実施していないという結果に。さらに“節約意識”として「定期的に料金プランを見直している」と回答した EV／PHEV ユーザーは 1 割程度と、コストを抑えるチャンスを逃している実態が明らかに

ENEOS Charge Plus について

「ENEOS Charge Plus」は、ENEOS が提供する EV／PHEV 向けの充電サービスです。全国約 12,000 箇所のガソリンスタンドと、商業施設や道の駅などに設置された約 8,000 基（提携含む）の急速・普通充電器をネットワーク化し、会員はアプリを通じて簡単に利用することができます。安心・便利に使える全国ネットワークを強みに、日常の充電から長距離ドライブまで幅広いシーンをサポートしています。

■ PHEV プランについて

2025 年 10 月 1 日（水）より、日本初※となるプラグインハイブリッド車（PHEV）専用の「PHEV プラン」の提供を開始しています。「PHEV プラン」は従来の「プレミアムプラン」と比べ、基本料金を半額に設定し、すべての PHEV ユーザーがおトクに加入いただける充電プランです。さらに、ENEOS でんきをご契約のお客さまは「ENEOS でんきセット割」により、基本料金が月額 220 円（税込）割引となります。

本プランを通じて PHEV ユーザーの充電体験を向上させ、電動車のさらなる普及とサステナブルな社会の実現を目指し、“本当におトクな EV ライフ”を支援してまいります。

※2025 年 9 月時点、当社調べ

<プラン内容（税込）>

プラグインハイブリッド（PHEV）車にお乗りの方に	週に1回以上外出先で充電する方に	外出先での充電頻度が少ない方に
新プラン PHEVプラン	プレミアムプラン	シンプルプラン
基本料金 ※新規入会者限定 1,100 円/月 （初月0円/月[※]） ENEOSでんきセット割でさらに220円/月割引	基本料金 ※新規入会者限定 2,200 円/月 （初月0円/月[※]） ENEOSでんきセット割でさらに550円/月割引	基本料金 0 円
従量料金 当社充電器 急速充電 22.0 円/分 普通充電 3kW: 3.3 円/分 6kW: 3.3 円/分	従量料金 当社充電器 急速充電 22.0 円/分 普通充電 3kW: 3.3 円/分 6kW: 3.3 円/分	従量料金 当社充電器 急速充電 46.2 円/分 ENEOSでんきセット割で38.5円/分 普通充電 3kW: 3.3 円/分 6kW: 6.6 円/分
提携充電器 エコQ電：急速充電 49.5 円/分 EV充電エネチェンジ：普通充電 3kW: 3.85 円/分 6kW: 7.7 円/分	提携充電器 エコQ電：急速充電 49.5 円/分 EV充電エネチェンジ：普通充電 3kW: 3.85 円/分 6kW: 7.7 円/分	提携充電器 エコQ電：急速充電 49.5 円/分 EV充電エネチェンジ：普通充電 3kW: 3.85 円/分 6kW: 7.7 円/分

- ※1 基本料金は入会初月無料で、入会翌月からの請求となります。
また、プランを変更する場合、変更後のプラン利用は申込翌月から反映され、基本料金は、変更月から適用されます。
- ※2 PHEV プランは、PHEV を保有している方のみご契約できます。
PHEV プランを適用されている会員の車両確認については、適宜実施させていただきます。
- ※3 提携充電器を含む充電スポットは、ENEOS Charge Plus アプリでご確認いただけます。

<当社 HP リンク>

ENEOS Charge Plus HP :

https://www.eneos.co.jp/chargeplus/?utm_source=release&utm_medium=referral&utm_campaign=PR

調査結果詳細

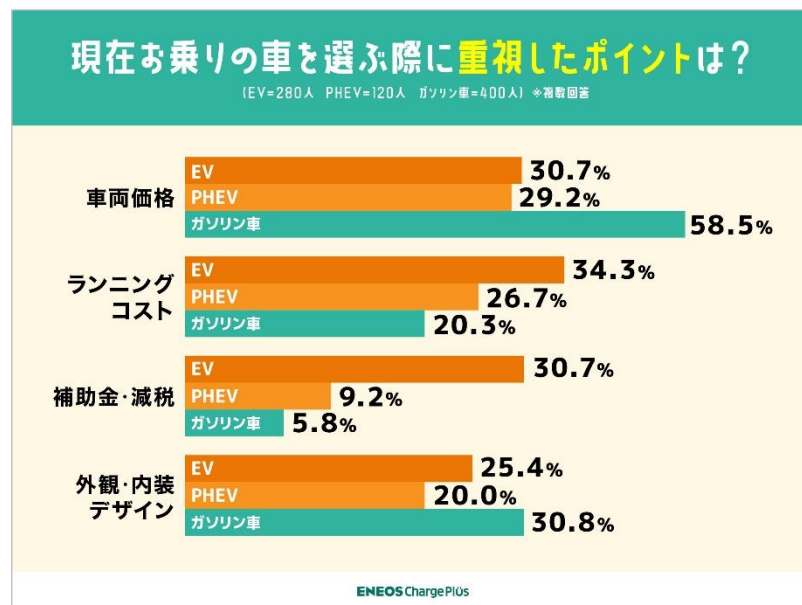
■EV／PHEVは「コスト」、ガソリン車は「車両価格＋感性」のバランスで選ばれる

EV ユーザーは『ランニングコスト』（34.3%）、『補助金・減税』（30.7%）、『車両価格』（30.7%）を重

視。PHEV ユーザーも『ランニングコスト』(26.7%)、『車両価格』(29.2%)を挙げており、両者ともコスト意識が強いことが明らかになりました。

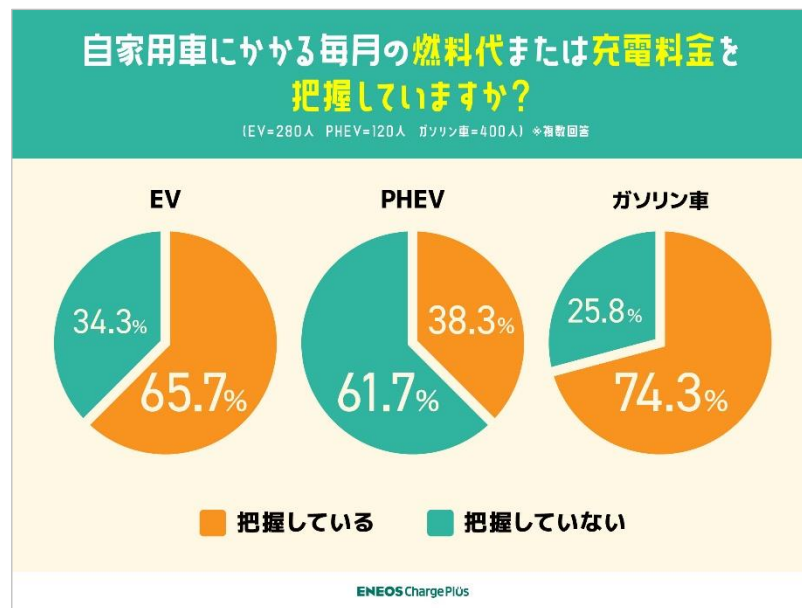
「車両価格」はガソリン車ユーザーでも 58.5%と最も多く挙げられ、共通して重視される項目ですが、ガソリン車ではこれに加えて『外観・内装デザイン』(30.8%)がEV/PHEV ユーザーと比較してスコアが高く、“かっこよさ”やデザイン性を選択理由とする傾向が目立ちました。

経済性を追求するEV/PHEV ユーザーと、車両価格と感性のバランスを重視するガソリン車ユーザーの価値観の違いが明らかになりました。



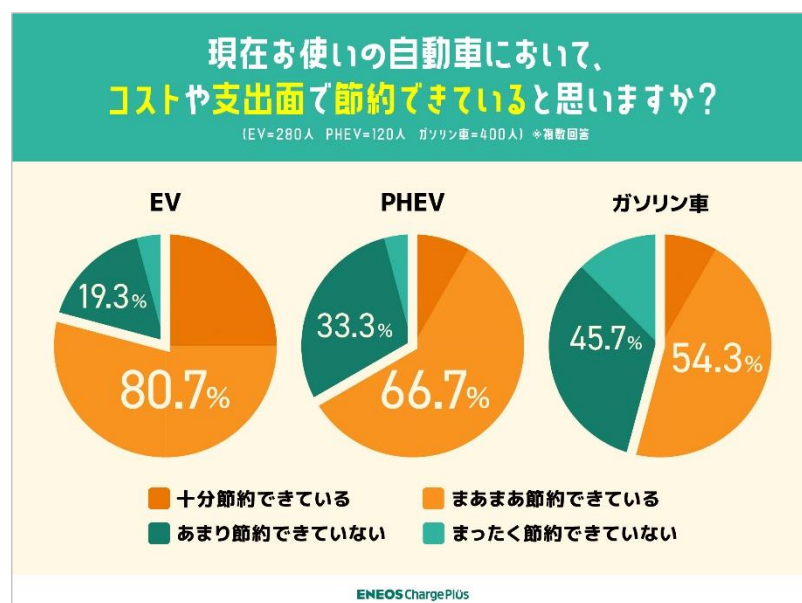
■日常コストの把握度はガソリン車が優勢

燃料費・充電代の把握度を比較すると、ガソリン車ユーザーは 74.3%が「把握している」と最も高く、EV ユーザーも 65.7%と一定の把握度を示しました。対照的に、PHEV ユーザーは 38.3%にとどまり、三者の中で突出して低い結果となりました。経済性を理由に選ぶ人が多いEV/PHEV でありながら、ガソリン車ユーザーの方が日常的なコスト管理に長けているという“意識の逆転現象”が見られ、とりわけ PHEV ユーザーは“コスト無関心型”の傾向が鮮明となりました。



■節約の実感は“思い込み”

自動車コストに関する自己評価を尋ねたところ、EV ユーザーの 80.3%、PHEV ユーザーの 66.7%が「節約できている」と回答し、ガソリン車ユーザーの 54.3%を大きく上回りました。経済性を理由に選ばれる事が多い EV/PHEV が、日々の燃料費や充電代の把握度ではガソリン車に劣るにもかかわらず、より強く「節約できている」と評価していることから、実態以上に「節約できている気分」＝“思い込み節約”が広がっていることが明らかになりました。

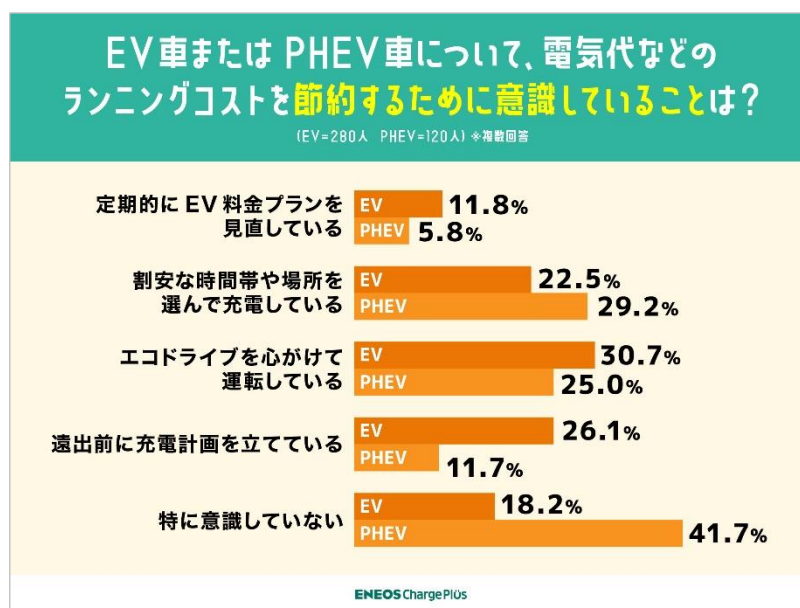


■節約意識に「プラン見直し」が含まれない

節約意識の具体的な取り組みについては、EV ユーザーでは「遠出前に充電計画を立てる」(26.1%)や「割安な時間帯に充電する」(22.5%)、さらに「エコドライブを心がけて運転している」(30.7%)など一定の工夫が見られました。一方で、「定期的に料金プランを見直している」と答えた人は 11.8%にとどまりました。特に PHEV ユーザーでは「エコドライブを心がけて運転している」(25.0%)といった取り組みは一定数あるものの、「定期的に料金プランを見直している」がわずか 5.8%とさらに低く、「特に意識していない」が 41.7%と突出しており、節約そのものへの関心の薄さが際立ちます。

一方、ガソリン車ユーザーは「エコドライブを心がけて運転している」(27.5%)に加え、「割引クーポンやポイントを活用する」(27.5%)、「スタンドやブランドを比較する」(27.0%)、「給油タイミングを調整する」(22.3%)といった、日常的に実行可能で効果の出やすい節約行動を複数取り入れており、着実にコストを抑えようとする姿勢が目立ちました。

この結果から、EV/PHEV ユーザーは「料金プランの見直し」といった根本的な対策が節約意識に含まれにくく、特に PHEV では“節約そのものを意識しない”傾向が浮き彫りとなりました。



ガソリン車について、ガソリン代などのランニングコストを節約するために意識していることは？

(ガソリン車=400人) ※複数回答



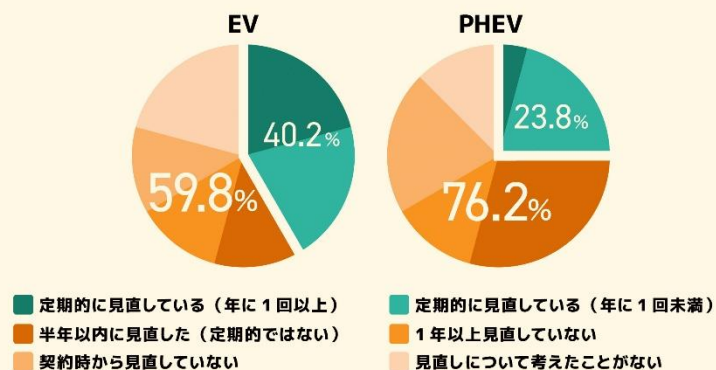
ENEOS ChargePlus

■料金プランは6割が“放置”、活用不足が鮮明に

料金プランの見直し頻度を調べると、EV ユーザーの 59.8%、約 6 割が「定期的な見直しをしていない」と回答しました。さらに、PHEV ユーザーでは実に 76.2%、約 7 割超が「定期的な見直しをしていない」と答えており、EV 以上にプラン活用への関心の低さが際立ちました。経済性をフルに活用できるはずの料金プランが、十分に見直されず放置されている実態が浮き彫りとなり、EV/PHEV ユーザーが節約機会を逃している現状が確認されました。

EV車または PHEV車について、現在ご契約の充電プラン(料金プラン)についての見直し頻度は？

(EV=280人 PHEV=120人 ガソリン車=400人) ※複数回答



ENEOS ChargePlus

【調査概要】

調査方法：インターネット調査

調査地域：全国

調査実施期間：2025 年 8 月 27 日～ 8 月 29 日

有効回答数：800 名

回答形式：単一回答および複数回答形